

I 研究主題

児童生徒の自主性を引き出す授業づくり

～学びのユニバーサルデザインを意識した授業づくりと学びの集団づくりを通して～

II 主題設定の理由

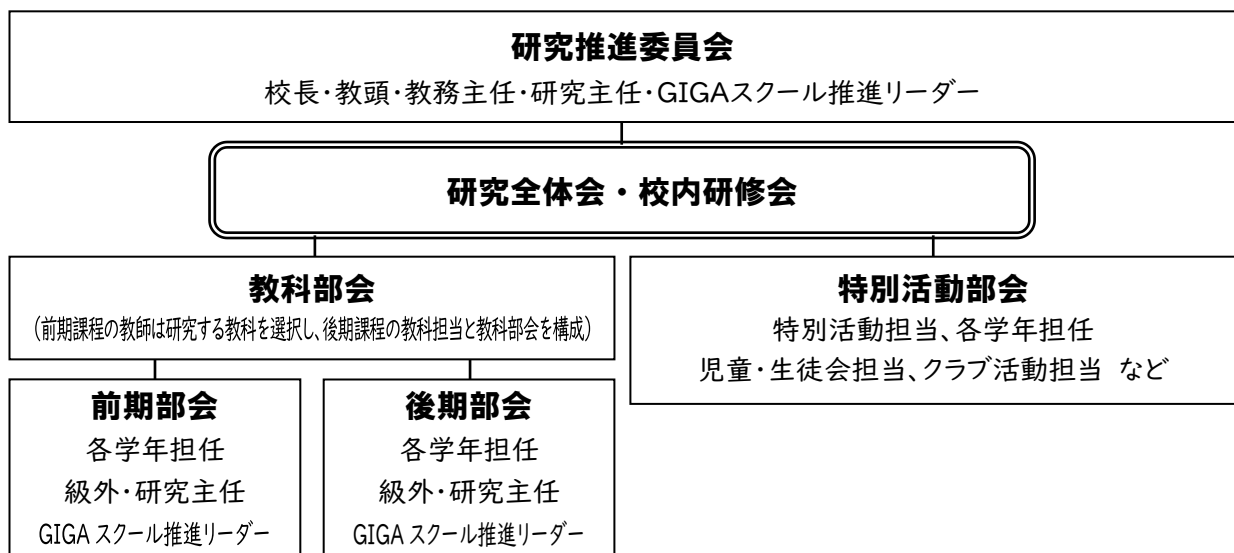
加賀市学校教育ビジョン「BE THE PLAYER」では、「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す力」「問題発見力」「課題解決力」「革新性」の育成を目指している。

このビジョンを踏まえた昨年度の学校研究によって、小学校では、他者と協働し、計画を立てて学習を進める力を高めることができた。しかし、一人ひとりの力を伸ばすための適切な手立てや配慮に関しては、課題が残った。中学校では、生徒に委ねて学習を展開していく授業が充実したことにより、生徒が自らの力で学習を進める力や意欲が高まった。しかし、自らの考えを持つことができるようになったものの、協働の場面において他者と関わり合いながら意見を形成したり、学びを深めたりする点において課題が残った。

そこで今年度の学校研究の主題を『児童生徒の自主性を引き出す授業づくり ～学びのユニバーサルデザインを意識した授業づくりと学びの基盤づくりを通して～』とした。学びのユニバーサルデザインとは、「誰にとっても学びやすい授業」を設計していくことを意味している。受け持つ児童生徒の状況を把握した上で、一人ひとりの力を伸ばしていくために必要な手立てや配慮について探求していく。学びの集団づくりとは、特別活動の充実を軸に、誰とでも学び合える授業づくりの土台を形成していくことを意味している。学級活動や学校行事等を通して、お互いを知ったり、認め合ったりする機会を設け、誰とでも意見交換し、学びをつなぎ深めていける基礎を築いていく。

また、昨年度からの継続として、義務教育の9年間での学びを意識した授業デザイン力の向上にも取り組んでいく。前期・後期の教師が連携して単元構想を工夫することで、教科のねらいを達成し、児童生徒が自ら計画立てて課題について追究する授業を構想していく。特に教材研究を行う中で、児童生徒が学びたくなる学習課題の設定に意識を置き、単元構想を行っていく。

III 研究の組織図



IV 研究の内容（具体的な研究活動）

学校研究を通して目指す児童生徒像

- ・単元の見通しを持ち、主体的・計画的に課題に取り組むことができる児童生徒
- ・多様な価値観を受け入れ、他者と協働し、課題解決に取り組める児童生徒

(1) 委員会や部会の活動内容

- ①研究推進委員会 … 研究主題の設定、研修計画の策定、学校研究の進捗状況の把握、成果と課題の検討、教師、児童生徒アンケートの作成、「BE THE PLAYER PLAN」の作成、など
- ②研究全体会・校内研修会 … 学校研究内容の全体共有、効果的なICTの活用事例や授業実践事例の交流、要請訪問、など
- ③教科部会 … 前期課程と後期課程の学習内容を踏まえたカリキュラムマネジメント、単元構想・評価規準に関する相談、相互授業参観、など
- ④特別活動部会 … 学級活動(学級会)・学校行事・児童・生徒会活動の充実にに向けた取り組みに関する協議、など

(2) 「児童生徒の自主性を引き出す授業づくり」に向けて

①教科のねらいを達成するための教師の授業デザイン力

- ・前期・後期課程の学びの系統性をふまえた「単元構想シート」を作成する。

→児童生徒が学びたいくなるような導入、課題設定、学習内容、時数配分などについて前期課程と後期課程の教師で相談する。

→前期課程と後期課程の両方の視点から教科のねらいを明確にする。

②自律した学びを育てるための教師の授業コーディネート力

- ・本校では児童生徒に委ねる授業を「自己選択(何を学ぶか・何で学ぶか・誰と学ぶか)」「自己決定」「自己調整(学びの計画性)」の場がある授業と定義し、適切な場面で取り入れる。

- ・学びのユニバーサルデザイン(誰にとっても学びやすい授業)を意識した授業づくりを行う。

→学びの環境設計、児童生徒への手立てや配慮(C→B、B→A、Aをさらに伸ばす)

- ・児童生徒が多様な意見に触れることを通して、考えを広げ深める時間を拡充する。

- ・GIGAスクール推進リーダーを中心とした、ICT活用のための研修

③前・後期相互の授業参観・実践交流

- ・「授業デザイン力」と「授業コーディネート力」の視点から授業を参観したり、実践を交流したりすることで授業改善につなげる。

④特別活動を軸とした学びの集団づくり

- ・学級活動(学級会等)、児童・生徒会活動、学校行事、クラブ活動などの充実に図り、人間関係形成や社会性の育成をめざす。

V 研究成果の検証方法

- ・教師アンケートを年3回(7月・12月・2月)実施し、授業改善についての成果と課題をつかむ。

項目 『単元構想シートを活用し、授業のデザイン力を高めることができたか』

『学びのユニバーサルデザインを意識した授業づくりができたか』

- ・児童生徒アンケート・ScTNを年3回(7月・12月・2月)実施し、目指す児童生徒像に近づけたかを検証する。

項目 ScTN④『授業では、挑戦と失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組んでいる(前)』

ScTN⑧『授業では、他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている(後)』

VI 研究の全体構想図

